

I 調査の概要

1. 調査の目的

市民の市政に対する意識、意見、要望等を統計的手法によつて的確に把握し、市政運営の有効な手段とする。

2. 調査の設計

- | | |
|--------------|-----------------------------|
| (1) 調査地域 | 相模原市全域 |
| (2) 調査対象 | 相模原市在住の20歳以上の男女個人 |
| (3) 標本数 | 3,000人 |
| (4) 抽出方法 | 住民基本台帳及び外国人登録原票からの等間隔系統抽出 |
| (5) 調査方法 | 郵送調査法（郵送配布－郵送回収、はがきによる督促1回） |
| (6) 調査期間 | 平成24年5月25日～6月15日 |
| (7) 調査機関 | 社団法人輿論科学協会 |
| (8) 有効回収数（率） | 1,516（50.5%） |

3. 調査の内容

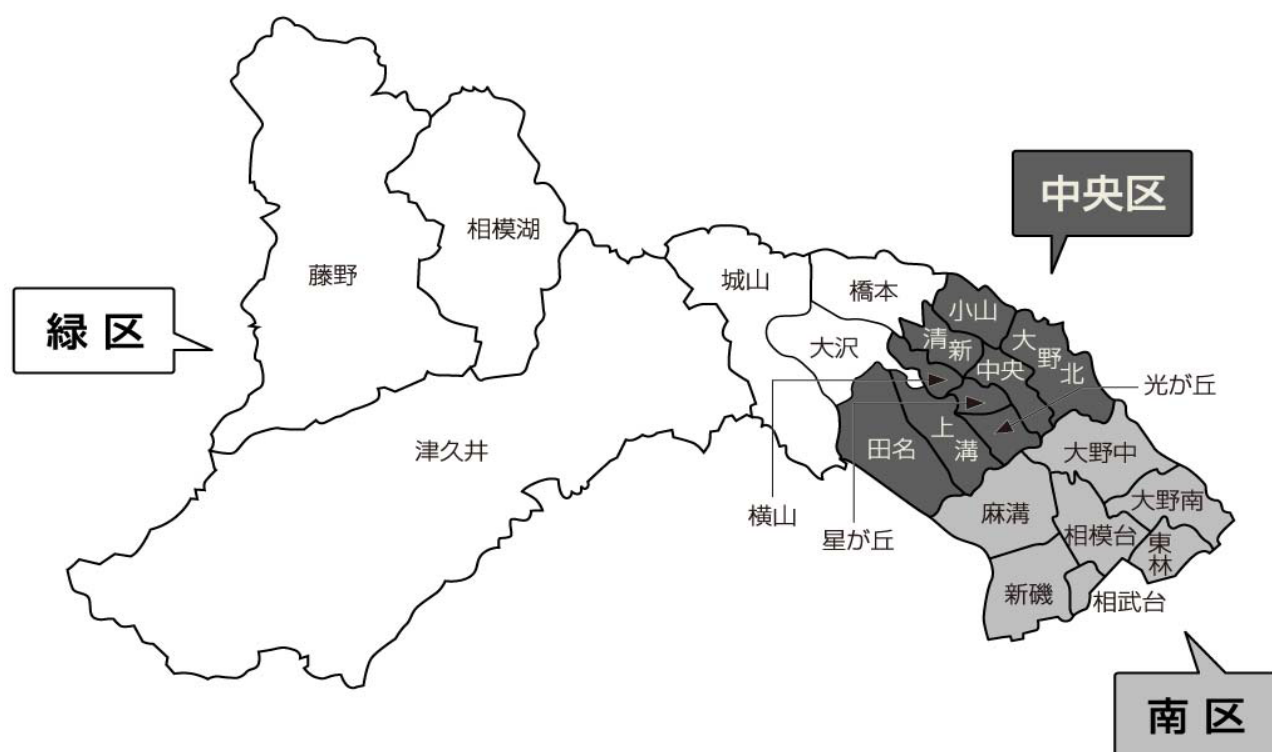
平成24年度 市政に関する世論調査は、9つの項目について調査した。

調査項目	設問番号
1 広報について	問1～問5
2 住民主体のまちづくり制度と大都市制度改革について	問6～問9
3 市職員の接遇について	問10～問11
4 民生委員について	問12～問14-1
5 ひばり放送について	問15～問19
6 食育について	問20～問22
7 相模原市コールセンターについて	問23～問24
8 スポーツの観戦や支援について	問25～問28
9 市民の声の施策への反映について	問29
基本属性（年齢、居住地等）	F1～F8

4. 区別

地域	地区（対象住所）
1 緑区	橋本地区、大沢地区、城山地区、津久井地区 相模湖地区、藤野地区
2 中央区	小山地区、清新地区、横山地区、中央地区、星が丘地区、 光が丘地区、大野北地区、田名地区、上溝地区
3 南区	大野中地区、大野南地区、麻溝地区、 新磯地区、相模台地区、相武台地区、東林地区

5. 区別・地区別回収状況



区	地区名	標本数	回収数	回収率
緑区	橋本	300	166	55.3%
	大沢	136	60	44.1%
	城山	101	47	46.5%
	津久井	115	57	49.6%
	相模湖	36	14	38.9%
	藤野	42	21	50.0%
	緑区計	730	365	50.0%
中央区	小山	88	36	40.9%
	清新	126	45	35.7%
	横山	54	37	68.5%
	中央	146	127	87.0%
	星が丘	76	28	36.8%
	光が丘	115	57	49.6%
	大野北	234	105	44.9%
	田名	125	74	59.2%
	上溝	136	65	47.8%
	中央区計	1,100	574	52.2%
	南区	大野中	265	120
大野南		297	168	56.6%
麻溝		69	31	44.9%
新磯		54	28	51.9%
相模台		187	79	42.2%
相武台		88	39	44.3%
東林		170	89	52.4%
南区計		1,130	554	49.0%
地域不明分			23	—
合計		3,000	1,516	50.5%

6. 集計結果を見る上での注意事項

- (1) 表、グラフのnまたは、()内の数字は、回答者数のことであり、回答はすべてnを基数とした百分率で表わし、小数点第2位を四捨五入した。このため、百分率の合計が100%にならない場合がある。
- (2) 集計結果の表やグラフは、コンピューター入力の都合上、回答の選択肢の言葉を短縮して表現している場合がある。
- (3) 回答の比率は、その質問の回答者数を基数として算出した。複数回答の設問は100%を超える場合がある。
- (4) 回答数が30未満と小さいものについては、比率が動きやすく分析には適さないため、参考として示すにとどめる。
- (5) 今回の調査結果による標本誤差は下記のとおりである。例えば、回答者数が1,516である回答が50%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±2.57以内(47.43%~52.57%)とみることができる。

標準誤差の表

回答比率 回答者数	10%または 90%程度	20%または 80%程度	30%または 70%程度	40%または 60%程度	50%程度
1,516	±1.54	±2.05	±2.35	±2.51	±2.57

$$\text{※標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{\text{回答比率} (1 - \text{回答比率})}{\text{回答者数}}}$$

※標本誤差とは、母集団からある数の標本を選ぶとき、選ぶ組み合わせによって統計量がどの程度ばらつくかを、全ての組み合わせについての標準偏差で表したものをいう。